

2008年度 サロン2002 総会 議事録

【日 時】2008年5月10日(土) 13:15~15:15

【会 場】味の素スタジアム内 会議室1

【議決成立要件】2008年度会員数(総会時) 143名(ただし2008年度会費未納者を含む)

出席者数7名、欠席連絡者90名のうち委任状提出者数86名、合計93名で、定足数に達した。

参考) 2006年度は109名中、出席16名、欠席連絡かつ委任状提出49名、計65名(欠席連絡は52名)

2007年度は127名中、出席13名、欠席連絡かつ委任状提出66名、計79名(欠席連絡は73名)

【議 長】中塚義実(理事長)...規約による

【出席者】7名 阿部博一 安藤裕一 川井寿裕 高田敏志 田中俊也 中塚義実 本杉亀一

【欠席連絡者】90名(うち委任状提出は 86名)

浅野智嗣 麻生征宏 池田誠剛 石坂友司 泉優二 伊藤慧 伊藤禎治 井上俊彦 井上俊也 牛木素吉郎 宇都宮徹吉 宇都宮みちこ 梅澤佳子 梅本嗣 浦和俊介 大久保尚彦 大橋二郎 賀川浩 笠野英弘 梶野政志 加納樹里 菊池正史 岸卓巨 岸田雅隆 北原由 熊谷建志 古藤田信博 小西由佳理 木幡日出男 齋藤健司 三枝敏洋 笹原勉 塩沢拓也 嶋崎雅規 島原裕司 清水諭 白井久明 神宮司親治 庄田守男 高木亮 高崎康嗣 高橋誠 高橋義雄 高原涉 高藤順 竹下誠一 田中理恵 田部学 田村充 茅野英一 土谷享 手塚一志 徳田仁 仲澤眞 中曾千鶴子 名方幸彦 中西正紀 中村敬 長岡茂 西村祥央 野田直広 半澤隆憲 福西達男 藤田直樹 藤田稔人 麓信義 堀美和子 本多克己 前田博子 松下潤 松下徹 松田保 松本秀一 松本行弘 水上博司 宮明透 宮川淑人 武藤太智 武藤文雄 室田真人 両角晶仁 安松幹展 矢野英典 山下高行 山田告人 山本浩義 由利英明 吉村修 依藤正次 涌田龍治

委任先(86名)内訳

中塚義実(含中塚理事長)...33名、中塚先生(含中塚さん、中塚様、中塚氏)...17名、理事長(含会長)...15名、議長...13名、徳田仁...1名、田中俊也...1名、総会(出席者の総意、総会の議決、出席の皆さま)...6名

【議事録作成】中塚義実

【議 題】

報告事項

- . 2007年度事業報告及び決算
- . 2008年度会員募集について
- . 理事会(2008.4.19.)報告

審議事項

- . 事業計画及び予算に関する事項
 1. 月例会について
 2. プロジェクトの承認
 3. サロンと目的を同じくする団体の事業への参加
 4. ホームページの運営(「サロン通信」「ML」含む)
- . 事業報告及び決算に関する事項
- . 本規約の改廃
- . その他サロンに関する重要事項

はじめに（中塚）

上記のとおり、本日の出席者7名、委任状提出者86名、合計93名が「出席」扱いになり、過半数を越え、定足数に達しました。過去2年間の提出状況も、参考までに載せておきます。

会場使用に当っては、FC東京の村林裕社長とともに、久保田淳さんにご尽力いただきました。サロンの元会員ですが、業務多忙によりサロンにGIVEできないことを理由に数年前に退会されました。退会後に貢献してくださっています（戻ってくればいいのに...）。

本日の審議事項（規約より抜粋）のうち、「 ．事業報告及び決算に関する事項」は、年度末の理事会・総会で取り上げましたが、監査を終えましたので本日の総会での審議となります。「 ．本規約の改廃」については、本年度は特に変更はありません。「 ．その他サロンに関する重要事項」も、いまのところ会員からは提起されていません。よってここでは「 ．事業計画及び予算に関する事項」に時間をかけて議論していきたいと思います。特に「月例会・公開シンポ・出張サロン」の内容についてと、「メーリングリスト・ホームページ関連」について時間をとって議論します。

事前に会員からいただいたメールのうちいくつかを、補足資料として配布しました（議事録には掲載せず）。

注）個人名については原則として敬称略。

報告事項

都合により、 の順で報告した（ は審議も含む）。

．2008年度会員募集について（中塚）

2007年度に入会の意思表示をした（退会の意思表示をしなかった）が、再三の督促にもかかわらず会費を納入されなかった方が1名（長谷川雅久）おり、この方は2007年度も会員ではなかったとみなす（本人にも確認済み）。「サロン2002」名義で会費を振り込まれた方が1名いるが、「窪田修」であることが判明した。よって2007年度の正式な会員数は131名（132名に通信を送っていた）。

2008年度に退会の意思を表示されたのは、上間匠、早川武彦、山田智子の3名。

新規入会希望は、次の15名。

石坂友司（関東学園大） 大塚正洋（南国高知ブランコバレイア） 岸田雅隆（AVANTI KANSAI）
小西由佳理（アスリード株式会社） 庄田守男（東京女子医科大学） 白井久明（弁護士） 高藤順
（吉備国際大学） 竹下誠一（高知放送） 田部学（FC東京U-15むさし） 田村充（横浜FC） 手塚一志（上達屋） 中西正紀（東京工業大学社会理工学研究科大学院） 武藤太智（A.C.アンマリアトーレ） 横尾智治（筑波大学附属駒場中高） 吉田毅（東北工業大学）

よって2008年度会員は、 $131 - 3 + 15 = 143$ 名。

うち、名簿原稿についての連絡をされた方が87名（14名は名簿原稿更新なしとの連絡）。56名からは連絡がなかった（退会の意思表示がないのでそのまま継続）。

【訂正事項】

総会終了後、以下について、会計及び名簿担当から訂正の申し出があった。

1．2007年度会員数

会員一覧表の会員数をダブルカウントしていたことから、2007年度会員数は「132名」である。

2．2008年度会員数

上記理由により2008年度会員数は、「144名」である。

議事録読替箇所（以下、同様の理由から読替。）

- ・ 4行目

(誤) 2007年度の正式な会員数は131名 (132名に通信を送っていた)

(正) 2007年度の正式な会員数は132名 (133名に通信を送っていた)

- ・ 12行目

(誤) 2008年度会員は、 $131 - 3 + 15 = 143$ 名。

(正) 2008年度会員は、 $132 - 3 + 15 = 144$ 名。

- ・ 13行目

(誤) 56名からは連絡がなかった

(正) 57名からは連絡がなかった

・ 理事会 (2008.4.19) 報告 (中塚)

別紙「2008年度第1回 サロン2002理事会報告」は、すでに会員には送信済みのもの。項目ごとにポイントを指摘する。理事会での議論を踏まえた形で審議に移りたい。

議題 . 2007年度の総括

1 . 会費納入状況について ... 2007年度会費受入額が確定。後ほど報告

2 . 事業及び決算報告 ... 監査報告を受けて後ほど審議

議題 . 2008年度の準備

1 . 入退会について (2008年度名簿進捗状況) ... 前記のとおり

2 . 組織について ... 理事・監事は任期2年目で変更なし。理事に担当業務を割り当てることにした。運営委員も現行どおりでいきたい。

3 . 事業計画及び予算

1) 月例会 ... 理事長と「企画」担当理事で早めに計画を立て、会員にアナウンスする
「関西サロン」はサロン2002の月例会の一つとして考える。

2) 公開シンポジウム ... テーマをどうするか (あとで議論)

3) 出張サロン ... 今後は「サロンin 」とする。旅費の請求も可能。

4) サロン通信について ... 月例会報告をPDFファイルで送信する。

5) ホームページについて

6) メーリングリストについて

・ 2007年度事業報告及び決算 (川井)

別紙資料をもとに説明があった。

収入の部 857,429 円

1 . 会費受入

4月19日の理事会の時点で、2007年度会費未納 (または不足) 者が10名いたが、その後、理事長からの最後の督促などもあり、5月9日の段階では2名のみ入金を確認できなかった。うち1名 (長谷川雅久氏) は会費未納であることを本人に確認できているので、「サロン2002」で振り込まれたのは窪田修氏であることが判明。2007年度は最終的に131名の方から会費受け入れがあり、これを会員数とする。

【訂正事項】

議事録読替箇所

- ・ 4行目

(誤) 2007年度は最終的に131名

(正) 2007年度は最終的に132名

2. 雑収入

預金利息1,084円(8月期:527円、2月期:557円)と、2006年度の振り込み手数料の戻入分105円、さらに月例会後の懇親会費として5,000円の入金があり、ここに計上した。(7月例会後、宮川氏からの入金:中塚)

3. 前年度繰越金

413,240円の内訳は、2006年度繰越金410,240円と、2006年度会費未納であった澤井和彦氏からの会費受け入れが3,000円あったのでここに含めている。これについては、2006年度監事の高橋義雄氏より、前年度会費未納者から年度を越えて受入があった場合、会費受入として計上するのではなく、当該年度の会費とは明確に区分するため、前年度繰越金として計上し、備考で内訳を示したほうがよいのではないかと指摘を受けており、このように整理した。

支出の部 456,442 円

1. 月例会補助

別紙のとおり、収支差額の6,200円を補助した。

2. プロジェクト補助

シンポジウムに要する経費とプロジェクトに要する経費に分けて整理した。

シンポジウムについてはまず、2006年度の報告書(『2006年ドイツ感じたこと』)が12月に完成し、99,110円の補助をした。2007年度のシンポジウムは12月に開催したが、報告書作成が遅れ、年度内に完成できなかった。したがって2007年度決算においてはシンポジウムの経費のみを決算し、120,533円の補助をした。

プロジェクトその他補助については、今年度は「東京都におけるユースフットサル大会」報告書への広告掲載料31,500円のみとなっている。

3. 事務費

本年度より「事務費」のくくりで諸経費をまとめている。

2007年度のテーマとして「日本サッカー史(それもローカルな)をさぐる」を掲げ、各地で出かけることを想定していたので「諸謝金」「旅費」を例年より多くとったが、未使用であった。

「印刷製本費」は名簿の印刷製本費で63,000円。

「通信運搬費」は名簿等の送料。担当の岸氏が安いところを探しながら作業を進めてくれたので予算より安く収まった。監事の齋藤氏からは単価を明記することを求められ、可能な限り整理したが、複数種類を同時期に送付した場合(名簿+東京都報告書+シンポジウム報告書、名簿+東京都報告書など)は、単価が同一でないことから、表の単価欄は空欄になっている。

4月19日の理事会では、「借損料」に7月例会の会議室使用料を入れていたが、これはすでに月例会補助で整理しているので、本年度は未使用である。

「雑役務費」は、理事長から会員に送信される「通信」にかかる費用として、1枚50円のはがきで通信が送られてくるという計算で、50円×132名×12回=79,200円を支出した。

「消耗品費」は、サロン2002の代表者印制作費10,889円、缶バッジ制作費8,250円、及び封筒・ラベル代5,150円である。

「予備費」の支出はなかった。

次年度繰越 400,987 円

収支差額が次年度繰越金となる。

監査報告

監事の齋藤氏からの文書は次の通り。

ご提出のあった書類に基づき、サロン2002の平成19年度の会計監査報告を下記の通りお返事申し上げます。

1. サロン2002の平成19年度会計は、収支決算書、現金出納簿、月例会決算書、名簿担当会計報告、サロン2002公開シンポジウム2006収支決算書等、適正に処理されていることを認めます。
2. なお、現金出納簿注記 の18年度決算通帳未引落分については、原因が判明次第直近の会計年度において補正すること、月例会決算の表中の支出合計欄に109,200円を明記すること、名簿担当会計報告の単価欄の空白を記載可能な部分は埋めることを求めます。
3. また、通帳類及び現金等の保管担当者が複数存在するので、今後は会計担当が一括して管理できる方式に改善していく必要があると認めます。その場合には、会計及び現金の管理・受領責任を分担して確実に実行することも含めて、会計担当者を複数人に増員することが望ましいとご意見申し上げます。

平成20年5月9日 齋藤健司

何年か経過するうちに、いくらかの余裕もできてきたので、これらを有効に活用していきたい。時間がない中で事務作業を行っているので、アルバイトを雇って作業してもらうようなことも必要。

「報告事項」となっているが、2007年度決算を2007年度中に審議できなかったのでここで審議承認

審議事項

(中塚) 2008年度の事業計画および予算に関する事項について時間をかけて議論したい。大きく分けて2つのパートに、一つは「月例会・公開シンポジウム・出張サロン」といった事業に関して、もう一つは「ホームページとメーリングリスト」といったネットワークに関して議論する。

・事業計画及び予算に関する事項(2008年度)

1. 月例会・公開シンポジウム・出張サロンに関して

(中塚) 本年度の取り組みについては総会前に、いくつかアイデアをいただいている。

徳田仁 ... EURO2008、北京五輪2008、フットサルワールドカップ2008は何らかの形で取り上げたい

宮城島清也... 「Jリーグ百年構想が地域スポーツに与えたインパクト」「個人参加型サッカーのその後」「営利事業としてのフットサル」

依藤正次 ... 「今年(来年でも)の公開シンポジウムでは「フットボールのいちジャンルとしてみるハンディキャップサッカー」というネタをリクエストさせて頂きます。このところサロンはサッカーのディディールばかりに目がいって、ちょっと残念におもっています。この辺でスポーツの本質を追及してほしいと希望します」

また、宇都宮徹吉氏からは、「百年構想最前線 - 地域リーグからみた」を公開シンポジウムでというリクエストに対してOKとの連絡を、また土谷享氏には「DUOリーグのトロフィーがない! - スポーツとアートの融合を」を取り上げることについての可能性を打診したが、時期尚早であろうとのコメントをいただいている。

(高田) 今年はEUROなどメジャーな大会があるので、大きいイベントに関連するテーマを取り上げるのもよいだろう。しかし個人的には「Jを目指す町」というのに関心がある。これまであまり興味がなかったが、町田でもゼルビアの動きが始まっており、興味を持つようになった。ここ数年、クラマ

- ーさん、ドイツのワールドカップと、大きなところを取り上げてきているので、身近なところに目を向けるのがおもしろいのではないか。
- (中塚) そうというのがサロンっぽくてよいかももしれない。
- (高田) 町田でもシンポジウムをやっているが、名前のある人を呼んでくるだけで、内容的な深まりがない。サロンのシンポジウムは準備からしっかりやるので、話が飛びながらも、結構「なるほど」という話が出てくる。全国津々浦々みてきた宇都宮さんのような方や、地域スポーツに関係されている方もサロンにはいらっしやるので、突っ込んだところができると思う。
- (田中) 出張で行くのではなく、公開シンポジウムで、各地からお招きしてやるといいのでは。
- (高田) 例えば各地域をみてきている宇都宮さんと、実際に取り組んでいる人たちをお招きして、「これについてはどうですか」と問いかけるのがよいと思う。会員以外がパネラーになるという問題はあがるが。
- (中塚) 両方やってみてはどうか？ 出張も、公開シンポも。
- (田中) 成功例は表に出てくるが、失敗談や、こんなことで困っていますというような話がなかなか出てこない。いろんな所が交わることで、オープンに話ができるとういと思う。
- (本杉) 現地に行って現状をきいたり認識するのは大事なことだが、公開シンポジウムで各地域の人を呼ぶことによって、参加者が地域の話の聞けるだけでなく、その人たち(演者同士)の横のつながりができる。つながりができることで、今までできなかったことができるようになる可能性が広がる。ある地域の体験談は他の地域にとっても参考になるはず。例えば、アルビレックス新潟の観客動員の話。小学校に無料招待券をプレゼントする。しかし「チケットが欲しいと応募してきた人にだけ渡し、保護者同伴なら入場できる」とする。タダ券だとありがたみがないが、こういう形にすると子供だけではなく同伴の両親や、おじいちゃん・おばあちゃんも来場し、結果的にすそ野が広がる。また、甲府のスポンサーの話。お金以外でも、スポンサーはできる。例えば飲食店に選手を激励する食事をやらせてもらう、選手が髪の毛を切りにいったら散髪屋さんが安くやってくれるなど、地元の小さな商店でもできるサポートをしていただく。こうした様々な事例を紹介してあげるのは、互いにとって有効。内容が濃くなるので、演者を呼びすぎると時間がなくなることは要注意。
- (高田) 例えば町田の某チームは、経営も含めたクラブ運営に苦労しているとは言いながら、地方のクラブと比較すればまだ恵まれているのではと思う。田舎で、企業がないようなところでどんな苦労をされているのか。状況に応じた取り組みを引き出すのはおもしろい。
- (本杉) クラブを立ち上げる時に、サッカーどころとそうでない地域の違いもおもしろそう。
- (中塚) 地域リーグネタでよいのではないか。いろんな地域でそういう動きが出てきているので、タイムリーかもしれない。公開シンポジウムは、地域リーグを題材にして「Jを目指す町の動き」を柱とする。すると、決勝大会が終わる12月頃の開催か。準備の時期を考えてもこの時期が妥当。そして出張サロンで岡山、金沢あたりに出かけてみてはどうか。
- (阿部) JFLの開幕戦が国立競技場であって4,000人ぐらいしか入らなかったが、カターレ富山の開幕戦は1万人以上、Jリーグぐらい入っている。地域は結構盛り上がっているのでテーマとしてはいい。
- (中塚) 地域リーグをめぐる話を月例会でも取り上げて、少し意識を高めていくのがよい。
- (安藤) 失敗談とか苦労話が互いに知りたいところだと思う。野球やハンドボールを取り込んでいる例なども挙げていけば、地域スポーツ全体の動きがみえてよいのではないか。
- (阿部) 「百年構想は東京モンには絶対わからないよ」ということをあるライターに言われた。地方にとって百年構想のインパクトは、東京からみているのとは異なり、非常に大きいものがあるのだろう。
- (高田) 百年構想と地域リーグのリンクはいろんなところでみられる。「百年構想」をみてはじめてたわけではないが、気がつけば「百年構想」で言っているのと同じことをやっている。本質的な部分でリンクしているのでは。トップチームだけでなく、下部組織を育てつつやっいていこうとしているところは多いのではないか。

- (中塚) A級講習会の講師で清水へ行ったとき(12月)に、Jステップの部屋で宮城嶋さんと会っている話をした。その際、受講生の元Jリーガーもやってきて、彼の出身地である三重県でのサッカークラブづくりの悩みを聞いた。法人格取得にあたってNPOがいいのかどうかというのが彼の直面する課題の一つだったが、ちょうど宮城嶋氏はNPOを認証する側で、そこでよい意見交換ができた。問題を抱えている人と情報を持っている人が出会うだけでも意義はある。
- (川井) サッカーの地域リーグを取り上げるのはいいと思う。しかし、サロンはサッカー関係者だけの団体ではないので、できれば、サッカーのリーグを中心としつつもサッカーだけに特化しないで、地域スポーツ全体を取り上げてはどうか。総合型地域スポーツクラブの事業は10年以上前からやっているが、ある程度頭打ちになっている。10年スパンのスポーツ振興基本計画も平成22年まで。全国の市町村に総合型クラブを、と言っているが、現状で50%行かないぐらいの設置率。成功例ばかりでなく、できたけどだめになっていったクラブの失敗例を伝えていく必要がある。地域リーグと総合型クラブはあまりリンクしていないのかもしれないが、地域のスポーツが活性化しないと日本全体のスポーツは活性化しない。サッカーの地域リーグを題材として、その地域のスポーツの活性化を取り上げるような内容がよいと思う。
- (高田) フットサルの地域リーグの代表が集まる大会で、中国地方(山口県)代表として出てきた「SAスポーツクラブ」というクラブがある。そこは総合型のクラブでサッカーの多世代型クラブだが、トップの人数が少ないのでフットサルのチームを作り中国地区代表となったとのこと。サッカー、フットサル、少年野球、バレーボール、スポーツ教室もやっている。もともと永大産業サッカー部がその町にあった関係で、サロン会員の平田生雄氏が指導されている。
- (中塚) 取り上げる事例の中に、総合型クラブを一つ入れるといいだろう。
- (川井) 国のスポーツ予算に関わっているが、文科省の中にいる人間だけで運用を考えていても限界がある。中にいる人間にいろんな情報が集まるかといったらそうでもない。アイデアはすでに出尽くした観がある。サロンには、違うノウハウを持った人がいるので、ブレインとして機能してほしい。こちらとしては、そういうところからヒントをもらっていきたい。スポーツ振興基本計画は第一段階が終わり、スポーツ振興法の改正の話もある。大きな変わり目がここ数年で出てくる中で、国と地方の住み分けや、どういうところにお金がほしいのかという議論をして知恵を出してほしい。これは、私の仕事上の希望であるが。
- (中塚) 文科省が持っている国のスポーツ振興予算はどれくらい?
- (川井) たかだか190億。文化予算は1,000億。もっともこれは文科省が確保している予算で、例えば国土交通省が公園の中にサイクリングロードをつくるお金などは含まれていない。学校体育予算も入っている。ただし、体育の教員の給与などは入っていない。
- (本杉) totoが500億売れたとすると過去最高の助成金が出るはずだが。
- (川井) 本来totoの助成でやる部分を、totoの売上げが少なかったために、これまでは国の予算で振り替えてやって来た。例えばドーピング検査などがそうである。totoが売れてきて助成ができるようになったら、もう一度財政の切り分けの話が出てくるだろう。totoでやる話、スポーツ振興基金でやる話、国でやる話と。いろんな見直しの時期とあいまって、こういう話も出てくる。
- (本杉) totoを買っている人の8~9割は一攫千金をねらっていると思う。いま、1回平均22億ぐらいの売上げがある。“toto狂想曲”の時の売上げが60億ぐらい。あのときはマスコミが大きく取り上げてくれた。今もキャリアオーバーが発生しているが、そこまでの売上げの伸びはない。totoの売上げを伸ばすことがスポーツ助成につながり、それがスポーツ文化の発展につながるということをブログに書いたが、こういったこともどこかで取り上げることができれば...
- (川井) 助成を行うことがtotoの売上げにもつながっていく。しかし、現段階では、まず、借金を返済することが第一。このような状況の中においても、財政当局と折衝し、借金を返しながらも助成が可能となった。立ち上げの時から苦労してきた制度なので、これから本来の助成がきちんとできる

よう売り上げを伸ばしていく必要がある。ただ、現在の売り上げの状況に安心してはだめ。

- (本杉) シンポジウムではなくても、月例会案として「マンガ」を取り上げてみたい。サブカルチャーからスポーツの楽しさを再認識することが多い。特にマンガ。サッカーだと「キャプテン翼」、マンガを読んで感動したからやってみようという気になる人も多い。バスケでは「スラムダンク」、テニスでは「テニスの王子様」が連載されていた時は、その影響でバスケやテニスを始める子供が急増した。具体的にどう取り上げるかは未定だが、サッカー・スポーツとマンガについて取り上げられればおもしろいと思う。もう一つはFリーグの検証。今年で2年目になるFリーグの現状と今後について、開幕戦に合わせて検証するのもいいかなと思う。
- (中塚) というようなことを月例会に振り分けて、企画担当とぼくの方で検討して組み立てていきたい。整理すると、まずサッカー史・スポーツ史は引き続き追ってきたい。同時に、地域リーグからみえるクラブづくり、地域のスポーツ環境づくり、これをJリーグ百年構想とからめて公開シンポジウムや出張サロン、月例会でトピック的に取り上げていきたい。それに応じた予算配分も出てくるだろう。

2. ホームページ・メーリングリストに関して

- (中塚) 理事会メーリングリストをグーグルで試験的にやっている。しかし、グーグルに登録する際に、新たにアドレスやパスワードを入れるのが面倒くさいと感じたのだが...
- (安藤) あれはグーグルのメインのページにアクセスするときは必要だが、管理人が全部登録するだけで大丈夫。そのページにアクセスすることによって過去のログを閲覧することができるというメリットはあるが、そういうことをしない人はわざわざ登録する必要はない。管理人がメールアドレスを登録すればそれでよい。
- (中塚) なるほど...。するとよけいなことをしていたわけだ... (笑)
- (高田) うちのクラブでも使っている。保護者だけとかおやじだけとか、管理者が設定してグループできる。
- (阿部) ビバ! サッカー研究会はフリーメールを使っていて、管理人にメールアドレスを教えて登録してもらっている。パスワードを入れて入るところはあるが、全員が手続きしているわけではない。
- (本杉) ビバ研の場合は、MLを完全に連絡用で使っている。管理人に自分のアドレスを伝えれば連絡がくる。教えるのがいやな人はHPで確認してくださいという形。サロンのMLをみると、返信して意見交換に使っているというようにみえるので、ビバ研が使っているのとは目的が違う。
- (中塚) 宮城嶋氏から「MLは是非続けてほしい!」という意見をもらっている。特に地方の人にとってMLは不可欠だろう
- (田中) ぼくも清水の情報をサロン経由で宮城嶋君からもらっている(笑)。不可欠ですね。
- (中塚) これについては急いで対応したい。徳田さんが理事会で言っていた、HPと連動した、サロン独自のMLも、同時に探っていきたい。とにかく急いでMLの復旧に取り組みねばならない。
- (安藤) HPとのリンクを本多さんのところでやってもらうのは現実的ではないという返事があった。最終的に目指すのはいいとしても、現段階でHPとのリンクは考えないで、MLの再開を優先で考えていくのがよい。
- (中塚) そうしよう。グーグルで試験的にやっているのを第一候補と考えて、あとはML担当の涌田さん、HP担当の本多さんと改めて連絡をとって、至急再開の方向で動くこととする。

3. 予算(川井)

収入の部 891,000 円

前年度繰越金は 400,987 円。会費収入は、143 名の会員のうち、5 月 9 日現在 86 名から 308,000 円入金されている。残る 57 名から 3,000 円ずつ入金され、かつ 2 口以上の納入者が 10 名いると仮定して、会費収入を 489,000 円と見込んだ。雑収入を含めて計 891,000 円の収入を見込んでいる。

【訂正事項】

議事録訂正箇所

・ 1行目

(誤) 143名の会員

(正) 144名の会員

支出の部 891,000 円

月例会補助、プロジェクトについては前年度を踏襲する形。前年度の決算をみると余っているが、サロンの中心的な活動はここにあるので、下げることなく、使っていただきたい。

事務費について、印刷製本費は、会員数が増えていること、この機会にサロン専用の封筒を作りたいと考えており、若干増やしている。雑役務費については、有料 ML と契約した場合を想定して若干増やしている。消耗品はあまりかかっていないので若干減らした。

(安藤) ホームページの部分は本多さんからのメールで「1500 ドル」という話があったが、どこに反映されているのか。

(川井) 特段考慮していない。その経費を反映させるとすれば役務費となる。

(中塚) 本多さんのメールの意図を半分ぐらいしか理解できていないが、外国の会社に更新を依頼するということ？

(全員) わからない

(田中) 今のところ無料でやってくれると理解していたが。ただし、諸経費は発生するだろう。

(高田) 情報の更新のことを言っているのだろうか。月例会報告の更新を言っているのだろうか。

(安藤) 一つのサイトの運営をするのに使用料がかかる。更新しようがしまいが年間いくらかで契約するはずで、その部分だと思っているが。

(中塚) サロンの HP に「powered by FCJAPAN」を入れることで、広告掲出と作業費を相殺しているという考え方で去年まではやってもらっていた。今年も「powered by SIX」を掲出するということで、とりあえずの話はついている。

(川井) お金を払うことで HP がきちんと管理運営されるのであれば、出せないことではない。本来、HP を運営すればその管理運営費は発生して当然の経費である。

(田中) 時間を買うという形であれば管理料を払うということになる。

(川井) 時間がない中でやっているのだから、時間をお金で買えるのであればそうしたい。

(高田) あまりサロンのことを知らない人に紹介をして、「HP をみてくれよ」といっても「ふ～ん、だから何やっているの?」という感じ。あまり評判はよくない。ぼくらは月例会も出ているから様子がわかるけど、知らない人に紹介して響く人は少ないのではないだろうか…。たとえばビバ研の HP は、結構インデックスがしっかりしていて、月例会の話、フットサル大会の案内、読み物などがあり、HP らしくできているが、サロンの HP は何となくできているような感じ。知っている人はわかるが、新しく会員になってもらおうと紹介しても「これおもしろい!」となるのかなという感じがする。

(本杉) HP をサロン 2002 の普及や呼び込みに使っているのであれば、コンテンツは物足りない。ビバの HP が全部できているかといえばそうとも思わないが、参加したくなるような内容が含まれている。読み物もあるし。

(中塚) わかりました。本年度、ホームページをリニューアルしよう。2000 年度にサロンの HP ができて以来、一度も見直しをしていない。本年度はそのための経費を確保しよう。

(川井) では、どの部分から経費を捻出するか。事業費の「プロジェクトその他補助」で 10 万円計

上しているが、ここのところか。または事務費の諸謝金から捻出するか。

(中塚)「ホームページ・リニューアルプロジェクト」を立ち上げて、プロジェクトの中で取り組んでみてはどうか。

(川井) 20 年度は、現在の内容や体裁など全て見直すことから「プロジェクト」として支出するが、21 年度以降は、その管理運営を行うのみなので事務費として支出するということによいのではないか。

(本杉) 月例会で取り上げるのか。「ホームページを考えよう」は、1 回やるべきだと思う。

(中塚)「ホームページを考えよう」という題目で 1 回やるべきである。去年も夏前に「サロン 2002 にバーチャルなコミュニティは必要か」をやった。バーチャルなコミュニティはいらんけど(笑) ホームページはリニューアルしたい。

(川井) お金は適切どころに投じたい。今でもほとんど半分ぐらいは繰り越している。活動していないということではなく、有効に使えていない。謝金を払ってでも名簿の発送などが速やかにできるのであればやってほしいと思う。特に HP は大事。第三者が見るのだから。それだけで評価されることもある。

(本杉) サロンのトップページには、「サロン 2002 の志」が書いてあるが、あれを一見さんがみたら構える。いいことが書いてあると思うのだが、サロンに参加した事のない人があれを見たら「何かスゴイ事をやっている団体だ、私には無理かな」と思いそう。こういう雰囲気で行っていることはわからない。ぼくが最初に参加したのはドイツの出張サロン。その後に中塚さんに軽い感じで誘われて入会。しかしその後サロンの HP を見たら(汗) いいことが書いてあると思うのだが...

(高田) サロンは敷居が高いというイメージを持たれている。去年もかなりの人にサロン 2002 を紹介したけど「敷居が高そう」と言われる。HP みてよというとなますますそう思われる。アカデミックな話も確かにあるが、高い研究心を持ってこないと参加できないのではないかと勘違いしてしまう人もいようだ。

(本杉) 肩書きの部分で構える人も結構いる。専門家ばかりだ、と。

(川井) サロンを会員制組織にした際、「Give & Take」という部分については重きを置いてやって来たという経緯がある。色々な思いを込めて立ち上げた経緯があり、表現が重く感じられているのかも知れない。今後は、根底の部分は変えないが、対外的に発信する立場としては見直しが必要だと思う。

(本杉) 会員数が多くなってきたら変えざるを得ないところもあるし。

(川井) 宇都宮さんの写真も変えてもらいましょう。ちょっとおどろおどろしい(笑)。

(中塚) それが女性会員の少なさに表れているかも(笑)。

(本杉) あの色合いであの写真だと、どこかの革命の写真みたい(笑)。

(川井) 会員数は右肩上がりに増えてきている。これは、月例会の初回参加者からは参加費を徴収しないなど工夫をした結果であろう。

(中塚) 出張サロンに行くとその地域の人が入ってくることもわかる。

(川井) 会員が増えてきたらそれに対応していく必要がある。

(中塚) 了解。もし、ホームページの初期投資でもっと必要な部分が出てきたら、事務費から補填するというようにして、この予算書(案)でよいか。

承認。

(中塚) 最後に役割分担です。事業担当運営委員の高田さんには、昨年度に引き続きシンポジウムの事務局長をお願いしたい。会計・名簿担当では、岸さんが就職で釧路に行ってしまった。川井さんの抱えている仕事がすごく大変そうなので、岸さんだけでなく、色々な方に手助けしてもらいたい。

(川井) 私が担当している部分は、一番底辺のところなので、皆さんに体験してもらいたいというの

が本音である。次の世代にバトンタッチしたいという思いもある。

(田中) 学生や院生で誰かいないか。月例会でやってもらったらどうですか。場合によったら謝金も出るのだから。

(川井) もともと岸さんも学生で時間があるからということでやってもらっていた。

(中塚) そのあたりも念頭に置きながら、ここに名前が出ていない人も巻き込んで、川井さんのやっている仕事のサポートを考えていきたい。

以上で総会を終了します。ありがとうございました。

・事業報告及び決算に関する事項

2007年度については「報告事項」とあわせて審議済み

・本規約の改廃

本年度は特になし

・その他サロンに関する重要事項

特になし

【議論のポイント】(以下は、会員向けに5月12日付メールにて送信済み)

月例会・公開シンポジウム・出張サロンについて

- ・月例会のひとつの柱として、2007年度に引き続き「日本サッカー史・スポーツ史をさぐる」には継続して取り組む。特にローカルな歴史をさぐるのがサロンらしくてよい。
- ・公開シンポジウムでは「地域リーグ(とその加盟クラブ)」に焦点を当てながら、「Jリーグ百年構想が地域にもたらしたものをさぐっていききたい。地域リーグ決勝大会が終わる12月ごろ開催し、宇都宮徹壺氏(近著『股旅フットボール』参照)と、いくつかのクラブ関係者にご登壇いただき、互いにとって有益な内容を引き出したい。事務局長は昨年度に引き続き高田敏志氏。
- ・出張サロンは上記テーマと関連付けて複数回開催する。候補地として、金沢、岡山などがリストアップされている。
- ・月例会ではこのほか、本年度開催されるEURO2008、フットサルワールドカップ、北京オリンピックも取り上げたい。サッカー以外の種目についても取り上げていきたい。
- ・企画担当となった安藤裕一理事、徳田仁理事、および中塚義実理事長で相談し、月例会の期日とテーマを早めに決めて、アナウンスするようにしたい。

ホームページとメーリングリストについて

- ・メーリングリストについては、「なるべく早く復旧させる」ことを最優先に対応するものとする。さっそくML担当運営委員の涌田龍司氏とホームページ担当理事の本多克己氏で相談が始まった。
- ・ホームページについては、立ち上げてからこの方、なかみの見直しが為されていない。そこでこの機会に抜本的な見直しをすべく「ホームページ・リニューアルプロジェクト」を立ち上げ、できるだけ早い段階でリニューアルを試みる。そのための出費は厭わない。月例会でもこのことを取り上げる。

名簿について

名簿原稿は、新規15名、継続88名(うち14名は原稿更新せず)から提出された。5月13日(火)に印刷業者に渡す予定(5月12日に提出されたものまで反映する)。2006年度から丸2年間更新されていない原稿については、内容に誤りがある可能性が大きいいため、原則として氏名のみでの記載とする

以上